

令和４年度第２回はんだ環境パートナーシップ会議録

開催日時		令和５年１月１３日（金）　１０時００分～１２時００分			
開催場所		半田市リサイクルセンター２階　大会議室			
会議次第		1. あいさつ 2. 委嘱状交付 3. 議事 第２次環境基本計画推進状況の点検評価について 4. その他			
出席委員 ※敬称略		会長	千頭　聡	副会長	森下　久子
		委員	木村　浩二 (代理　森田　邦裕)	大場　渉	榊原　靖
			安達　典孝	菊地　克峰	牧野　純子
			澤田　和孝		
欠席委員　※敬称略			神戸　繁明	半田商工会議所 選出委員	
出席職員	事務局	市民経済部長	大山　仁志	環境課長	太田　敦之
		副主幹	鳥居　高宏	副主幹	森下　直孝

		副主幹	岩瀬 和彦	主事	新海 里奈
		主事	片山 高也	事務員	竹崎 真生
次第	議 事 概 要				
	各委員の発言は、市民・団体の代表としての発言ではなく、あくまで個人としての発言です。				
1. あいさつ	-部長あいさつ-（略） （千頭会長） 今年度常滑、知多、東海市の三市がそれぞれ、地球温暖化防止のため、地域で温室効果ガスの排出量を減らす計画づくりを進めている。 半田市は最初にゼロカーボンシティ宣言をしたため、先頭を切って、他の市町がついていくようになってほしい。				
2. 委嘱状交付	<部長より各委員に委嘱状交付> 任期は2年、2名委嘱のうち1名欠席				
3. 議事	第2次環境基本計画推進状況の点検評価について -事務局 柱1 ゼロカーボン社会に関する施策について、実績報告票を基に説明- （澤田委員） 資料2ページ目について、令和3年度に環境配慮型住宅用設備導入の予算化ができたと言っていたが、令和4年度における活用状況についてはどうか。				

	(事務局) 1月13日現在、蓄電池単独の補助の申請件数が約 60 件、太陽光パネル・HEMS（ヘムス）・蓄電池を一体にした一体型の補助の申請件数は約 40 件、ZEH（ゼッチ）について、申請件数は1件である。 残り1、2件受付できる状況で、当初予算で想定していた件数をおおむね満たしている。 (澤田委員) 資料 10 ページ目に記載の、「環境保全基金」の趣旨および財源について簡潔に伺いたい。 (事務局) 環境保全基金は年間 1,500 万円程度の、太陽光発電による売電収入とふるさと納税等の寄付金を財源としたものであり、環境政策全般に活用していく。 (千頭会長) 森林環境譲与税は半田市環境課には回ってきていないか。 (事務局) おそらく都市計画課に回っている。 (菊地委員) 半田市は電気自動車・ハイブリッド車・燃料電池車など、どれほど保有しているか。
--	---

	(事務局) 令和３年度時点で、電気自動車を１台環境課が保有している。燃料電池車はトヨタ自動車のミライ(MIRAI)を１台保有している。 (菊地委員) 普及を促進してください。 (榊原委員) 資料１１ページの愛知県気候変動適応センターとはなにか。 (澤田委員) 愛知県の環境調査センター内にある、気候変動の影響や適応に関する情報の普及を行っている機関である。 (千頭会長) 愛知県地球温暖化防止活動推進センターとは異なるものか。 (澤田委員) そのように記憶している。 (千頭会長) 資料４ページの中小事業者への省エネ診断について、事業者は有料になったが、家庭用は無料である。 市民の方へ診断を勧める広報については説明になかったが、行うことは考えていないか。
--	---

	(事務局) 家庭向けの省エネ診断として、市のサイトから申し込み、市民が診断を行うと、件数や内容が集計され、市に報告されるという仕組みがあり、令和３年度に実施したものの、実績としてはなかった。 (千頭会長) 時勢的にニーズのあることだと思うので、広報を検討してほしい。 -事務局 柱２ 資源循環社会に関する施策について、実績報告票を基に説明- (代理 森田様) 知多南部広域環境センターの供用開始後、ごみの収集量のモニタリングはどのように行っているか。 (事務局) 知多南部広域環境センターにおいて、どこの市町から出たごみかを受付で確認・計量している。搬入時に「家庭のごみ」か「事業者のごみ」か、確認して、それぞれ分類して集計している。 (千頭会長) 費用分担の仕組みとして、それぞれの市町から収集されたごみの量に応じて費用を負担することになっているため、少なければ少ないほど負担金が安くなるという仕組みである。
--	--

	(安達委員) 半田市リサイクルセンターが焼却をやめた後、資源循環社会の中で今後、この施設はどのように活用されていくのか、方針等を伺いたい。リサイクルセンターを環境学習の場として活用すべきではないか。 (牧野委員) グリーンセンターで長年環境学習が行われてきた中で、パートナーシップ会議においてもこうした意見が出たため、ぜひとも活用してほしい。 (事務局) 現在は停止した破砕施設の場所で資源の受け取りを行っている。将来的には焼却施設等を解体し、資源のストックヤード（回収・保管場所）に拡大したいと考えている。一方で、焼却施設を利用したいという事業者もいるため、現在協議中である。 (千頭会長) 市民の協力がないとできないこともあるので、次年度中に活用の方角性を考えてほしい。施設の活用について、パートナーシップ会議で議論ができると良いと思う。 (安達委員) いずれ焼却施設を更地にするのであれば、その前に普段は入ることができない焼却施設の中に入って見学するなど、体験的な環境学習もぜひ検討してほしい。 (事務局)
--	---

	現在は知多南部広域環境センターで、焼却施設やごみ処理についての環境学習を行っている。以前は市内小学校の社会見学でクリーンセンターの見学をしていたが、現在焼却施設が停止しており、ごみも収集していないため、知多南部広域環境センターで実際にごみの焼却や発電している様子を見学していただいている。 焼却施設の解体にあたり、環境学習の方向での活用が検討されていなかったため、環境教育の発信の場としての視点も今後検討したい。 （牧野委員） 実績報告票の令和7年度目標値について、中には言葉でのみ書かれており、具体的な数値が入っていないものもあるため、記載のないものについては記載してほしい。 （千頭会長） 定量的に目標値を出せるものは出してほしいということである。 （事務局） 行政の作る計画の内、目標値を達成したから効果があったかという、なかなか結び付かないことも多い。そういった経緯もあり、無理に目標値を定めなくてもよいという方針で進めていた。今後は目標値について、効果的なものがあれば導入したい。 （菊地委員） 自治区への加入者が減少している背景もあり、ごみに関する啓発・周知自体が困難である。市報が60%にしか行き届かない現状で、ごみの
--	--

	分別や場所、有料化などが分からない、いわゆる情報難民に対し更に、周知を行っていただきたい。 （千頭会長） 自治会の加入率は半分程度であるか。 （事務局） 6割程度である。 （千頭会長） そういった情報難民の人に対して、広報の手段としてはいかがか。 （事務局） 若い世代では、半田市の公式 LINE の登録者数が増加しており、定期的に発信している。また、YouTube で、粗大ごみの出し方やプラスチック資源について動画による広報を行っていた。こちらは修正中で取り下げている。並行して、ごみステーションにチラシを貼り、幅広い年齢層に伝わるよう取り組んでいる。 全ての市民に情報を発信できているかという部分については、まだ不足していると感じる。よりよい方法があればぜひともご教示願いたい。 （大場委員） この評価票について、各委員が評価したのち、どう活用するのか。誇張した表現になるが、環境担当については未着手が多く、リサイクルセンターはよく行われていると感じる。 例として二つを比較・引き合いに出すが、個々の職員の優劣ということ
--	--

	ではなく、リソース（人、予算）の再配置の必要性を認識する資料と感じているので、活用方法をお伺いする。 （事務局） 評価していただいたものを３月に集計し、市長へ報告する。柱１のゼロカーボン社会については、令和３年度より動き出したことも背景としてあるため、未着手となっている部分が多くなっている。そのことも含め、ご理解をいただきたい。環境課の人員や配分についても、市長にご一考頂ければと思っている。 （千頭会長） 今回のパートナーシップ会議において、開催がやはり遅いように感じられる。来年度については秋には評価できるようにし、その評価を予算要求の根拠にも使用していただければと思う。さらに、今回の評価に対し、次年度は何に力を入れて取り組むか、取り組んだ結果はどうだったかというような評価票を作っていくことが必要であると考えている。 半田市の最上位計画である総合計画は、毎年評価を行い、担当者がどう受け止めてどう反映させたかというサイクルを１０年間やっていた。 （安達委員） 資料が令和４年３月にできていたのであれば、４月に会議を行い、施策の改善等することはできたと思うが、なぜやらなかったのか。 （事務局） 令和４年３月に他課へ回答を依頼した実績報告票の取りまとめに
--	---

	時間がかかってしまったことで、開催が遅れてしまった。資料について令和 4 年 3 月と記載しているが、取りまとめが済んだのはもう少し遅い時期である。 （千頭会長） 次年度においては、迅速な対応を期待している。 （榊原委員） 資料 17 ページおける事業系一般廃棄物（厨芥類）の活用について、バイオマス発電の資源として活用するとあるが、そのバイオマス発電施設とは、令和 3 年 10 月に稼働し始めた施設ということでしょうか。 （事務局） その通りである。 （榊原委員） 実際にどれほどの厨芥類が持ち込まれているか把握しているか。 （事務局） 一日あたり 100 トンの投入のうち、家畜のし尿が 10 トン、事業系一般廃棄物（厨芥類）や事業系産業廃棄物が 90 トンである。まだ稼働当初の段階であり、稼働状況が安定するのに一年程度かかるため、段階的に投入している。 （千頭会長） 「ジモティー」や「さんあーる」といったごみに関するインターネットサービスの話になるが、半田市はリネットジャパンと提携しているため、パソコン類
--	--

の回収については無料という認識でよいか。

(事務局)

半田市では、パソコン類を小型家電として持ち込んでもらえれば、無料で回収を行っている。リネットジャパンを利用すると、基本的な回収費用は無料だが、データ消去等のオプション費用が発生する場合もある。

-事務局 柱3 自然共生社会に関する施策について、実績報告票を基に説明-

(森下副会長)

小学生の稲作体験はとても良い体験ができていますので、ありがたいと思う。また、給食についても、地産地消メニューによって郷土学習を行うことができていますので、ありがたい。

(千頭会長)

資料 22 ページにおける、学校等でのビオトープづくりについてはいかがか。

(森下副会長)

板山小学校のビオトープは、地域で活動している竹炭研究会さんが年1回程、手入れをしてくれている。

(千頭会長)

ビオトープの整備について、実績報告票の作成が学校教育課になっ

	ているため、学校教育課の立場としては整備の予定はなかったという認識であると思われる。 しかし、地域密着で行われている実態もあるため、検討の余地があると思う。 -事務局 柱 4 安心・快適社会に関する施策について、実績報告票を基に説明- (千頭会長) 矢勝川の水質改善について、調査をしたと思うが、その後どうなったか。 (事務局) 令和 2 年度に調査した結果、水質に影響を与えていた場所については概ね特定することができた。具体的な対策については令和 3 年度において未実施という記載となっているが、水質悪化の要因として、河川沿いに畜産施設が多くあるということもあり、畜産臭気監視事業における結果通知文の中に、「河川への排水についてのご配慮ください」という旨の文章を入れ注意喚起を図っている。 また、令和 3 年度末に矢勝川の鯉が大量に死ぬ事例が発生した。しかし、汚濁原因の 1 つとして、阿久比町から流入する河川の水質が非常に悪いということがあったため、知多県民事務所と阿久比町の協力の
--	---

	もと、その川沿いにある畜産施設に対して指導をしていただいた。このような事例も踏まえ、今後も指導や改善を継続していく。 (安達委員) 土木課作成の河川整備の実績報告票について、計画がないから行わないという姿勢に違和感がある。ないのであれば、計画作成に向けて何らかの行動をするべきではないか。 (千頭会長) それを含め、評価票へ記入していただきたい。 (大場委員) 資料 35 ページの下水道について、下水道接続率の指標は分かるが、下水道管の整備等も同じ指標だと評価が困難である。整備が完了したエリアの対象戸数と、その中での接続率という形で分割するべきではないだろうか。合併処理浄化槽の普及率についても、対象戸数等と同じことが言えると思う。 資料 36 ページの海洋プラスチックごみの削減クリーンアップ大作戦について、この活動は落ちているごみを拾うものであり、参加者は事業者や市の職員が多かったと記憶している。 このクリーンアップ作戦はあくまで不法投棄への対処であり、不法投棄削減の根本的な解決にはつながっていないのではないかと。 (事務局) クリーンアップ大作戦について、あくまで海洋ごみの流出を防ぐ取り組み
--	--

の一環であり、根本的解決になっていないということについてはご指摘のとおりである。

しかし、市民協働を通じ、最終的に他課等を巻き込んで別の新たな事業を立ち上げられればよいと考えている。

下水道整備については、令和 8 年度頃を目安に整備完了となっているが、9 割近くが完了していると記憶している。現在は整備した部分をいかに接続してもらうかに注力している状況のため、このような実績報告票になっている。

-事務局 柱 5 協働に関する施策について、実績報告票を基に説明-

(千頭会長)

今回、未着手である部分については説明を省略したが、未着手であること自体が課題であると受け止めてほしい。

(大場委員)

柱 5 の各施策について、それぞれニーズなどを含め必要であるかどうか精査はされたか。

例として資料 55 ページの ESG 投資について、市役所の立場において啓発を行う意味はあまりないのではないかと思う。場合によっては、柱の中でも優先順位をつけて実施する必要がある。

	(千頭会長) ご指摘の通り、そもそも課題としてどういう意味があるのか、来年度どう受け止めていくのかなど、確認して動かしていくことがこの 10 年間で重要である。 -事務局から評価票の記入方法について説明- (千頭会長) 全てについて評価することは困難であるため、評価は関心のある部分のみでも良い。また、評価するにあたって質問があれば事務局へ連絡してもらえればと思う。 (代理 森田様) 評価の段階について、区別をつける具体的な指標はあるか。 (千頭会長) 特にないため、忖度なしで、正直につけてもらえばよい。 (事務局) 個々人の評価は公表しないため、厳しい目をもって判断していただきたい。 (千頭会長) 最終的な評価は、AA 何名、A 何名というふうに多数決の形をとることになると思う。
--	---

	(事務局) 次回の会議は3月17日(金)である。 今回の会議録について事務局で作成したのち、委員の皆様にご確認いただき、半田市ホームページに掲載する予定である。 (千頭会長) 以上をもって会議終了。
--	--